

長崎県建築鉄骨研究会 令和5年度意見交換会報告

1. 開催日時：令和5年12月5日（火） 16:00～17:30
2. 場所：長崎県庁舎 行政棟3階308会議室（長崎市尾上町3-1）
3. 参加者：配布資料のとおり
4. 意見交換会（司会進行：前川浩二 副会長）

（1）概況

はじめに司会進行担当の前川浩二副会長から開会の辞が述べられ、本意見交換会の内容についての説明があった。引き続き会長の挨拶と中田繁専門委員による講話があり、岡崎克喜専門委員長から配布資料に基づいて令和5年度事業の中間報告が行われ、出席者全員による自由討議となった。

（2）講 話

講 師： 中田 繁 氏（株）境鉄工所 部長（本会専門委員）

テーマ： 鉄骨製作の現場から～耐震補強工事と文化財工事

本研究会作成の「体育館等補強工法標準図」に関して、特に新設水平スティフナの両面隅肉溶接の下面の上向き溶接を避けるために導入した部分溶け込み溶接4Aによって溶接が容易になり品質向上に役立っていること、文化財の補修については近年ステンレスの使用が増加しているが材料の入手も難しくBHの製作一つとっても容易ではないこと、また、平戸オランダ商館のカンヌキの修復を例に、文化財には鍛鉄を使ったものがあって鍛造技術はもとより表面の仕上げなどに様々な高度な工夫が必要であることなどが紹介された。

（3）自由討議

中田専門委員の講話に出た鍛鉄について、鍛鉄の成形方法や表面の焼きうるし仕上げなどについての質疑応答がしばらく続いた。その後、今年度事業の中間報告などに関連した質問について以下のような回答があった。

- 1) ホームページ作成は最終段階に来ているが、現状のページを会員にも公開して内容を確認して頂く。大きな修正のご意見があれば業者と相談して可能であれば対応を考える。今のところコストの上昇に繋がるような修正は想定していない。正式公開は来年2月頃の予定。

- 2) 長崎大学の陳助教の次の実験は関連する数値解析の結果を待って行われる見通し。時期は今のところ未定。
- 3) 2月実施の工場見学について。当日はS造に加えてSRC造の物件もある予定で、当初の説明の場所を会議室でなく工場にすれば50名程度の参加が可能である。
- 4) 「製作要領書ポイント集」の改訂版については査読も済みその後の対応が進行中である。講習会は来年度にずれ込む見込み。

そのほか、以下のような話題が出た。

- 5) 鉄構工場としては早期に知りたい主材のサイズやスリーブの数などの図面の承認が遅いことに苦慮している。設計図完成までの優先順位に関する指標となるようなマニュアルも見当たらないようである。これが建築鉄骨業界の将来に及ぼす影響が懸念される。
- 6) 工場見学について。小さな規模で回数を増やしたらどうか、工場側も努力したいとの発言があり、行政としても工場側のハードルが低いのであればお願いしたいとのことで、今後小規模の工場見学会も個別に実施される可能性が示唆された。
- 7) 建築鉄骨工事におけるBIMの現状についての質疑応答があり、道半ばであるとの認識が示された。

以上
(文責：修行 稔)